

【白杵市】 令和4年度 全国学力・学習状況調査 小学校 国語

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市	大分県	全国
全体		14	68	66	65.6
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71	70	69
	情報の扱い方に関する事項	0			
	我が国の言語文化に関する事項	1	92.1	83.1	77.9
思考力 ・判断力 ・表現力等	話すこと・聞くこと	2	65.2	65.3	66.2
	書くこと	2	53.9	49.1	48.5
	読むこと	4	65.9	65.1	66.6
評価の視点	知識・技能	6	74.5	71.8	70.5
	思考・判断・表現	8	62.7	61.2	62
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	73.5	71.8	71.8
	短答式	3	67.5	65.4	63.6
	記述式	3	52.7	50.7	51.3

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年を上回った問題）

- 話し言葉と書き言葉との違いを理解する。  
【言葉の特徴や使い方に関する事項・知識技能・選択】（+0.9）
- 表現の効果を考える。  
【読むこと・思判表・選択】（+4.0）
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。  
【書くこと・思判表・選択】（+4.7）
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。  
【書くこと・思判表・選択】（+6.2）
- 学年別漢字配当表に示されている漢字（反省）を文の中で正しく使う。  
【言葉の特徴や使い方に関する事項・知識技能・短答】（+4.5）
- 学年別漢字配当表に示されている漢字（親しむ）を文の中で正しく使う。  
【言葉の特徴や使い方に関する事項・知識技能・短答】（+7.5）
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。  
【我が国の言語文化に関する事項・知識技能・選択】（+14.2）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年を下回った問題）

- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。  
【読むこと・思判表・記述】（-4.9）

4. 国語科に関する児童質問紙の回答（矢印は昨年度と比較して）

質 問	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きだ	22.3↓	37.5↑	27.9↑	12.4↓
国語の勉強は大切だ	67.5↓	27.9↑	2.5↓	2.1↑
国語の授業の内容はよく分かる	40.6↓	45.6↑	10.2↓	3.5↑
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	62.5↓	31.4↑	2.8↓	3.2↑
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあった	全く解答しなかった	
	85.7	13.6	0.4	
解答時間は十分でしたか	余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	全く足りなかった
	30.4	40.7	25.7	2.9

○問題番号【2-1(2)】

問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する。	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	65.7	67.8	70.6

オ エ ウ イ ア  
 先週、図工の時間に、ぼくが描いた宇宙船にそっくり  
 だった。ぼくは、電車の緑色の液晶表示版を覗き込んだ。息が止  
 まりそうだった。老人は、ロボットの店番を頼むと、よっこらしよ立ち上  
 がり、裏口を開けて、ぼくを手招きした。ぼくは、老人のあとから宇宙船に足を踏み入れた。  
 同姓同名か。そんなことは世間ではいくらでもあるが、  
 やはり、ぼくは老人にさらに親近感を深めて、笑いかけ

(2) 森田さんは、……部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもその  
 ことが分かるところを探しています。「老人」が未来の「ぼく」であると考えられるところとして  
 適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

1 [物語の一部]の 部ア  
 2 [物語の一部]の 部イ  
 3 [物語の一部]の 部ウ  
 4 [物語の一部]の 部エ  
 5 [物語の一部]の 部オ

(解答累計)

1と5と解答	65.7
1と解答しているが5を解答していない	7.1
5と解答しているが1を解答していない	15.8
上記以外の解答	9.3
無解答	0.4

(考察)

登場人物の相互関係について、老人が未来のぼくではないか  
 ということ、文章の描写から捉える問題である。「ぼくし  
 か知れないことを老人が知っているかもしれない」という  
 描写①、「老人とぼくに一致する点がある」と考えられる描  
 写⑤を選択しなければならない。誤答の半分近くは⑤は選択  
 しているが①を選択していない。ぼくの描いた絵と老人の宇  
 宙船の模型が似ていることは、2人が何かしら近い関係であ  
 ることを暗示させる描写である。②③④は老人と僕が同一人  
 物かもしれないことを表してはいない。

(授業改善のポイント)

登場人物の相互関係や心情などには、登場人物の性格や情景なども含まれる。描写とは、物事の様子や場面、行動や心情  
 などを、読み手想像できるように書いたものである。第5学年及び第6学年においては、描写に着目しながら読み進めてい  
 くことが重要である。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や  
 会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら  
 読むことが大切になる。(学習指導要領より)

全体の結果から

国語に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると		
質問事項	白杵市（肯定的な回答）	全国（肯定的な回答）
国語の勉強は好きですか	59.8	59.2
国語の勉強は大切ですか	95.4	92.3
国語の授業の内容はよく分かりますか	86.2	84
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか	93.9	91.8
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	
	85.7	78
解答時間は十分でしたか	71.1	66

どの項目も、全国並みか、少し高い傾向にある。特に、「書く問題について最後まで書こうと努力した」は、昨年度全国よりも低く79.9であったが、今年度は全国よりも7.7ポイントほど高く、85.7であった。「書くこと」を比較的に得意としている白杵市の子どもたちの特徴が表れている。また、全校平均より上回っているものの、国語の勉強が好きだと答えた割合が昨年より3.2下がっている。つきたい資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びのある授業を行っていかなければならない。

学習指導要領の内容で見ると、知識技能の「我が国の言語文化に関する事項」は9ポイント、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」は4.8ポイント全国を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国を下回っており、文学的な文章、説明的な文章の読解力をつけていかなければならない。（ただし「読むこと」は昨年度10ポイント近く全国と比べ低かったが、今年度は0.7ポイントの差であり、飛躍的に伸びている）

問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を上回っている。また、今回の学力調査では小・中学校共に「書写に関する事項」が問われている。指導に当たっては、「何に気をつけて書くか」など、その単元・時間のめあてを明確にすることが大切である。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、以下のようなことも意識した授業行っていきたい。

- 学習指導要領で、その学年での指導事項をしっかりと理解し、単元構成を考える。
- その単元で「何ができるようになるか」を明確にし、児童がその学びを実感できるよう、学んだことを活かす学習を取り入れる。
- 文章と図や表を対応させ、伝えたいことを関連付けて説明したり書いたりする。
- 目的に応じて必要な条件を見つけるために、ただ読むのではなく、「何のために読むのか」ねらいを明確にして読む。
- 段落ごとのつながりを捉え、文章全体の構成を捉える。
- 要点・要約・要旨など、算数の公式のように、国語で使う言葉を大切にする。
- 説明文の要旨や課題に対して自分の考えを述べる場合は、何の条件もなくまとめさせるのではなく、「キーワードとなる言葉を入れる」「図や表と関連付ける」「字数制限をする」など条件を設定してまとめるようにする。
- 漢字の習得・定着は、ただ書くのではなく、既習の漢字を日記・作文で使用するなど、家庭学習等の仕方を工夫して行う。

【白杵市】 令和4度 全国学力・学習状況調査 小学校 算数

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市	大分県	全国
全体		16	67	64	63.2
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	74.5	70.7	69.8
	B 図形	4	69.3	64.4	64
	C 測定	0			
	D 変化と関係	4	53.5	51.4	51.3
	E データの活用	3	69.6	68.8	68.7
評価の視点	知識・技能	9	71.4	68.8	68.2
	思考・判断・表現	7	61.4	57.2	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	54.1	51.8	51.8
	短答式	6	80.2	77.2	76.5
	記述式	4	66.7	61.3	60.2

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の正答率+5上回った問題）

- 二つの数の最小公倍数を求めることができる。【数と計算・知識技能・短答】（+8.5）
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。  
【数と計算・思判表・記述】（+6.9）
- 百分率で表された割合を分数で表すことができる。【変化と関係・知識理解・短答】（+5.3）
- 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。  
【データの活用・知識理解・選択】（+5.7）
- 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。【数と計算・思判表・記述】（+7.9）
- 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。【図形・思判表・記述】（+10.8）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の正答率を下回った問題）

- 示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。  
【変化と関係・知識技能・選択】（-0.7）
- 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求めることができる。  
【数と計算・データの活用・知識技能・短答】（-0.7）
- 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。  
【変化と割合・データの活用・思判表・選択】（-2.1）

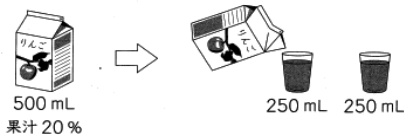
4. 算数科に関する児童質問紙の回答（矢印は昨年度と比較して）

質 問	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
算数の勉強は好きだ	36.0 ↓	25.8 ↑	22.6 ↑	15.5 ↑
算数の勉強は大切だ	78.1 ↓	19.1 ↑	1.1 ↓	1.8 ↑
算数の授業の内容はよく分かる	49.1 ↓	34.6 ↑	11 ↓	5.3 ↑
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	77.7 ↑	18.4 ↓	2.8 ↓	1.1 ↓
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	29 ↓	37.1 ↑	23 ↑	11 ↑
算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考える	39.9 ↓	42.8 ↑	14.1 ↑	3.2 ↓
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	39.2	34.3	20.1	6.4
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	47	40.3	10.2	2.5
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあった	全く解答しなかった	
	85.7	13.6	0.4	
解答時間は十分でしたか	余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	全く足りなかった
	54.6	32.1	11.1	1.8

○問題番号【2-(3)】

問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。	20.7	22	21.4

- (3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。  
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまどめます。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。  
このとき、

上のアにあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

(解答累計)

1と解答しているもの	70
2と解答しているもの	8.9
3と解答しているもの	20.7
上記以外の解答	0.4
無解答	0

(考察)

正答率が20.7と非常に低い。70%の児童が飲み物の量が半分になると、果汁の割合も半分になると考えている。飲み物の量が半分になっても、果汁の割合は変わらないことが理解できていない。果汁の量と果汁の割合を混同した、比例関係があると考えた、割合の意味が理解できていない、生活経験を想起することができなかった等と思われる。生活経験を想起させ、割合と結びつけて判断することを大切にしたい。

○問題番号【3-(1)】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	74.6	74.8	75.3

6年生のまなみさんの学級では、みんながもっと仲良くなるために、お楽しみ会をすることにしました。

(1) まなみさんたちは学級で話し合い、お楽しみ会の遊びを、次の4つの中から2つ決めることにしました。

クイズ	宝探し	しりとり	ビンゴ
-----	-----	------	-----

そこで、24人の学級全員にアンケート調査をし、希望する遊びを1人に2つずつ選んでもらい、その結果を下の表にまとめています。

希望する遊び (お楽しみ会)

遊び	ビンゴ	クイズ	宝探し	しりとり	合計
票の数(票)	17	13	12	ア	48

表の中のアに入る数を求めます。

表の中の数を使って、求める式を書きましょう。また、答えも書きましょう。

(解答累計)	
① $48 - (17 + 13 + 12)$ と解答 6	71.4
② $48 - 17 - 13 - 12$ と解答 6	2.1
③ $17 + 13 + 12 + \square = 48$ と解答 6	1.1
④ $48 - 17 + 13 + 12$ と解答 6	2.9
⑤ ①～④以外の式と解答 6	9.6
⑥ ①の式で誤答	2.9
⑦ ②の式で誤答	0
⑧ ③の式で誤答	0.4
⑨ ④の式で誤答	0
⑩ $17 + 13 + 12$ と解答 $17 + 13 + 12 + 48$ と解答	0.7
⑪ 学級の人数24を用いて解答	1.1
⑫ 上記以外の解答	6.8
⑬ 無解答	0.4



(考察)

表を読み取ったり、四則の混合した式や( )を用いた式を用いて正しく計算したりすることで、求められている部分の値を求める問題である。87%の子が答えの6人を導き出すことができているが、13%が( )を使わずに計算したり、式を書き忘れていたりしている。答えを導くことはできても、思考の流れを式に正しく表すことができていない。

○問題番号【3-(2)】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	61.8	63	63.9

(2) お楽しみ会のアンケート調査の結果から、2つの遊びを決めます。



選んだ人がいちばん多いビンゴと、その次に多いクイズに決めたらどうでしょうか。



選んだ人がいちばん多いビンゴをもとに、アンケート調査の結果を整理しました。一人一人が選んだ遊びを見てください。ビンゴとクイズに決めると、22番から24番の3人の希望が1つも通らないことになります。



ビンゴとクイズに決めてしまうと、全員の希望が通ったことにはならないですね。



24人全員の希望が1つは通るように、2つの遊びを決めることができますよ。

今回のアンケート調査の結果では、24人全員の希望が1つは通るよう  
に、2つの遊びを決めることができます。

その2つの遊びは、どれとどれですか。右の一人一人が選んだ遊びを見  
て、下の1から4までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 クイズ
- 2 宝探し
- 3 しりとり
- 4 ビンゴ

一人一人が選んだ遊び

	選んだ遊び	
1	ビンゴ	クイズ
2	ビンゴ	クイズ
3	ビンゴ	クイズ
4	ビンゴ	クイズ
5	ビンゴ	クイズ
6	ビンゴ	クイズ
7	ビンゴ	クイズ
8	ビンゴ	クイズ
9	ビンゴ	クイズ
10	ビンゴ	宝探し
11	ビンゴ	宝探し
12	ビンゴ	宝探し
13	ビンゴ	宝探し
14	ビンゴ	宝探し
15	ビンゴ	しりとり
16	ビンゴ	しりとり
17	ビンゴ	しりとり
18	クイズ	宝探し
19	クイズ	宝探し
20	クイズ	宝探し
21	クイズ	宝探し
22	宝探し	しりとり
23	宝探し	しりとり
24	宝探し	しりとり

(解答累計)

2・4と解答	61.8	1・2と解答	5.7
2・3と解答	3.2	1・4と解答	25.4
3・4と解答	1.8	1・3と解答	1.1
2のみ解答	0.7	4のみ解答	0.4
1のみ解答	0	3のみ解答	0
上記以外の解答	0	無解答	0



(考察)

問題は、「24人全員の希望が1つは通るよう2つの遊びを選ぶ」である。誤答の多くが1のクイズを選択している。クイズは2番目に多く希望していることから選択したと思われるが、3人の子どもは希望していないので当てはまらない。目的に応じて表を見取ることができなかつたと思われる。

全体の結果から

算数に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると

質問事項	白杵市（肯定的な回答）	全国（肯定的な回答）
算数の勉強は好きですか	68.3	67.8
算数の勉強は大切ですか	94.7	93.8
算数の授業の内容はよく分かりますか	84.5	84.6
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか	94.7	92.6
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	74.7	73.9
算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	84.8	82.7
算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	89.8	89
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートにかいていますか	91.9	91.9
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方など各問題がありました。どのように解答しましたか	最後まで努力した	最後まで努力した
	81.3	79.9
解答時間は十分でしたか		

どの項目も、全国並みか、少し高い傾向にあり、算数の学習の大切さや学習したことは将来役に立つと考えている児童は多い。

領域ごとに見てみると、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」とも、全校の正答率を上回っている。

評価の視点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも上回っている。

問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を上回っている。特に記述式は昨年度4.1ポイント下回っていたが、今年度は6.5ポイント上回っている。

大問は4問あるが、①買い物②ジュースの割合③お楽しみ会④プログラミングと、日常生活の場を想定した問題が出されている。④のプログラミングで図形を作図する問題であり、教科書でも取り組まれている。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、以下のようなことも意識した授業行っていきたい。

- 新大分スタンダードを意識し、子どもたちが課題を見つけ、その学びを自分の言葉でまとめること。
- 1時間毎の授業のめあてと振り返りをしっかりと行い、単元を通して「どのようなことができるようになったか」を実感できること。
- 多様な考えを出し合う課題と条件に合わせて考えを練り合う課題のどちらも大切にしていくこと。
- 自分の考えを式や言葉でノートに書き表したり、対話的な学びで表現したりし、説明する力を磨くこと。
- 問題を解くのに不要な数値等を提示し、自らが必要な数値・情報を選択し課題解決をしていくこと。
- 探究的な学習等で統計的学習プロセスを活用し、グラフや表を作成・分析し課題に対する結論を述べること。
- 家庭学習や小テスト等で基礎基本の定着を積み重ねること。
- 学んだことを日常生活の場で生かすような活用問題に取り組み、より学びを実感できるようにすること。
- 一人一台端末を効果的に授業で活用し、プログラミング学習等で論理的思考で解決する力をつけていくこと。



【白杵市】 令和4度 全国学力・学習状況調査 小学校 理科

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市	大分県	全国
全体		17	67	64	63.3
容量の領域	A区分	エネルギー	54.7	51.9	51.6
		粒子	68.6	61.6	60.4
	B区分	生命	75.5	73.9	75
		地球	69.5	66.9	64.6
評価の視点	知識・技能	6	69.6	64.1	62.5
	思考・判断・表現	11	66.1	63.8	63.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	68.9	66.8	66.8
	短答式	6	76.9	69.5	66.2
	記述式	4	51.9	47.4	47.3

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の正答率+5上回った問題）

- メスシリンダーという器具を理解して入る。【粒子・知識技能・短答】（+20.2）
- メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。【粒子・知識技能・選択】（+5.3）
- 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。【粒子・思判表・記述】（+5.2）
- 予想から確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる。【地球・思判表・選択】（+8.6）
- 水是水蒸気になって空気中にふくまれていることを理解している。  
【粒子・地球・知識技能・短答】（+9.7）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の正答率を下回った問題）

- 観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる。  
【生命・思判表・選択】（-5.4）


#### 4. 理科に関する児童質問紙の回答





質 問	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
理科の勉強は好きだ	40.6	32.2	18	9.2
理科の勉強は大切だ	58	27.6	11.7	2.8
理科の授業の内容はよく分かる	49.8	38.9	9.2	2.1
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	27.9	38.9	20.5	12.7
理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	41.3	36	17.7	4.9
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	11.7	13.4	25.8	49.1
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	31.4	45.2	17.7	5.7
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えていますか	33.6	49.1	13.4	3.9
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	25.4	40.6	26.1	7.8
今回の理科の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあった	全く解答しなかった	
	86.2	11.7	1.4	
解答時間は十分でしたか	余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	全く足りなかった
	72.4	19.8	5.7	1.8

#### ○問題番号【1-(5)】





問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見だして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	60.1	62.9	65.5

9月になり、ひろしさんたちは、ほかに調べていたこん虫を下の表のように4つのグループに分けました。


 ひろしさん  
 主な食べ物については、「植物」と「動物」で分けました。

	育 ち 方	
	さなぎになる	さなぎにならない
植 物	<b>1</b> モンシロチョウ  幼虫：キャベツの葉など 成虫：花のみつなど	<b>2</b> ショウリョウバッタ  幼虫：ススキの葉など 成虫：ススキの葉など
	<b>3</b> ゲンゴロウ  幼虫：イトミミズなど 成虫：イトミミズなど	<b>4</b> シオカラトンボ  幼虫：イトミミズなど 成虫：ハエなど
動 物		

(4) ひろしさんたちは、飼育したことがあるこん虫のカブトムシも、左の表に加えたいと考えています。カブトムシは、どこに加えればよいですか。下の〈資料〉をもとに、左の表の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

カブトムシの育ち方				
主な食べ物	食べない	落ち葉など	食べない	木のしる(樹液)など

(5) ひろしさんたちは、左の表に、さらに調べたこん虫を加えているときに、次のことに気づきました。

**【気づいたこと】**  
 ・幼虫のときにも、成虫のときにも、植物を食べるこん虫がいた。  
 ・幼虫のときにも、成虫のときにも、動物を食べるこん虫がいた。  
 ・表のこん虫以外で、成虫のときに植物も動物も食べるこん虫がいる。

ひろしさんは、【気づいたこと】をもとに、【問題】を見つけ、解決していくことにしました。どのような【問題】を見つけましたか。下の 1 から 4 までの中から最も適切なものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 表のこん虫以外で、さなぎになるこん虫は、いるのだろうか。
- モンシロチョウの幼虫は、キャベツの葉を食べるのだろうか。
- 表のこん虫以外で、幼虫のときに植物も動物も食べるこん虫は、いるのだろうか。
- なぜ、ゲンゴロウの幼虫や成虫は、動物を食べるのだろうか。

(解答累計)	
1と解答しているもの	13.4
2と解答しているもの	4.6
3と解答しているもの	60.1
4と解答しているもの	21.2
上記以外の解答	0
無解答	0.7



(考察)
昆虫の育ち方と食べ物を対象として、育ち方と主な食べ物の二次元の表から気づいたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出すことができるかどうかについて問う問題である。「表のこん虫以外で、成虫のときに植物も動物も食べるこん虫がいる」ことから、3の「表のこん虫以外で、幼虫の時に植物も動物も食べる昆虫がいるのだろうか」という新たな問題を見付けることにつながる。

### 全体の結果から

理科に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると、

質問事項	白杵市 (肯定的な回答)	全国 (肯定的な回答)
理科の勉強は好きですか	72.8	79.7
理科の勉強は大切ですか	85.6	86.5
理科の授業の内容はよく分かりますか	88.7	88.5
理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか	77.3	77.2
理科の授業でが学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	66.8	67.9
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思えますか	25.1	26.6
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画をたてていますか	76.6	78
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	82.7	84.9
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方も間違っていないかを振り返っていますか	66	72.2
今回の理科の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで努力した	最後まで努力した
	86.2	80.6
解答時間は十分でしたか	72.4	74.2

多くの項目で、全国より少し低い傾向にある。特に「理科の勉強は好きですか。(−6.9)」と他教科よりは高いが理科の勉強が好きではない子が1/4以上いる。

領域ごとに見てみると、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」とも、全校の正答率を上回っている。

評価の視点でみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも全国を上回っている。

問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を上回っている。特に短答式は10ポイント以上上回っている。

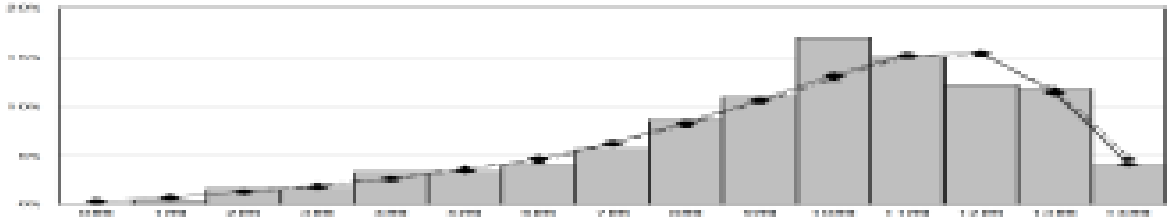
目標値を達成したものの、理科があまり好きではない子はまだ少ない。子どもの「あれ?」「なんで?」「やっぱり!」「わかった!」が聞こえるよう、実生活の中の「不思議」と結び付けながら、興味関心を持って観察・実験できるようにし、「対話的な学習」を通して、見通しを持ち、結果から根拠を持って議論し検証していく喜びを体感させたい。

# 【臼杵市】令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（ 〇：全国 □：大分県 ▨：臼杵市 ）

【中学校国語】 全問 14 問 平均正答率 69 （大分県 69、全国 69.0）

令和4年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>○正答率が全国値を上回った設問は 14 問中 8 問 市内全中学校が全国値を上回った設問は 1 問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文脈に即して漢字を正しく書く」 (言葉の特徴や使い方に関する事項) 85.3%(全国+4.2%)</li> </ul>	<p>○正答率が全国値を下回った設問は、14 問中 6 問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「論理の展開などに注意して聞く」(話すこと・聞くこと) 58.5% (全国-6.3%)</li> <li>・「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」(話すこと・聞くこと) 51.0% (全国-0.8%)</li> <li>・「表現の技法について理解する」(言葉の特徴や使い方に関する事項) 40.8% (全国-11.7%)</li> <li>・「事象や行為、心情を表す語句について理解する」(言葉の特徴や使い方に関する事項) 81.6% (全国-2.4%)</li> <li>・「行書の特徴を理解する」(我が国の言語文化に関する事項) 38.8% (全国-0.6%)</li> <li>・「漢字行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」(我が国の言語文化に関する事項) 80.8% (全国-0.3%)</li> </ul>

## 【成果】

臼杵市の正答率は 69 で全国・県平均（大分県 69、全国値 69）と同等である。

「知識及び技能」3 領域中 1 領域「情報の扱い方に関する事項」は全国・県平均を上回った。

「思考力、判断力、表現力等」3 領域中 2 領域「書くこと」「読むこと」は全国・県平均を上回った。

無解答が少ない。（14 問中 10 問が全国を下回り、うち 3 問は無解答率 0%）

低学力層の生徒（正答数 5 問以下）の割合が県平均より少ない。

生徒質問紙調査から、生徒に国語の学習の必要性や有用性を意識させることができていると言える。

- ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」 85.9%（県 81.2 全国 81.2）
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」当てはまる・どちらかといえば当てはまる 92.3%（県 93.4 全国 93.2）
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」 92.0%（県 90.1 全国 89.7）

## 【課題と対策】

○例年各種学力調査の「読むこと」の正答率・達成率が低いので、国語部会でも小中連携して「読むこと」の指導法を改善する必要がある。

授業で教材の内容を教えるのではなく、別のテキストでも使うことができる読み方を指導する。

場面展開や心情、行動、言動の意味、ものの見方・考え方を読み取るための「読み方（スキル）」を指導し、読みの汎用性を高める。

文法の指導にあたっては、授業で「知識・技能」を正確にインプットし、日常生活の一場面を想定して「知識・技能」を適切に「思考・判断・表現」するためのアウトプットする活動を取り入れる。また、定期テストでも「知識・技能」の正確性と「思考・判断・表現」の適切さを判断する問題を出题し、定着を図る必要がある。

臼杵市平均では正答率が全国を越えている問題も、正答率に学校差（3 三：最大 45.4）があり、課題が見られる問題も各校で異なる。各校で事項の分析を十分に行い、必要な指導事項を明確にして、授業改善する必要がある。生徒質問紙調査から、国語の教科学習に対する興味をもたせたり、粘り強く学習する姿勢を身に付けさせたりする指導が必要であることが分かる。【成果】で述べたように、国語の学習の必要性や有用性は意識しているため、生徒にとって「分かって楽しい」学習をめざすべきであると考え。

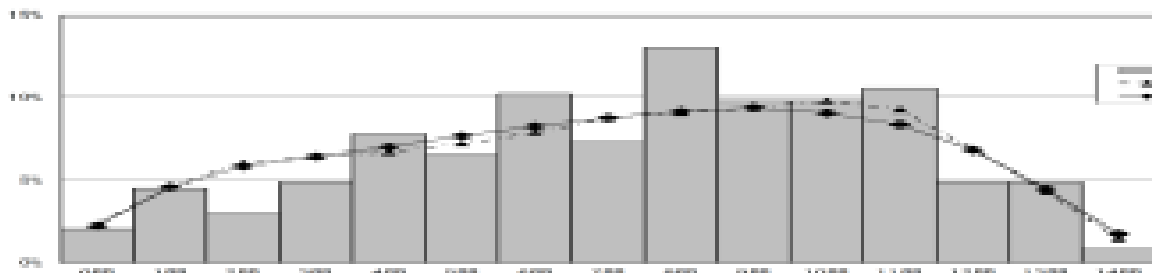
- ・「国語の勉強は好きですか」 64.5%（県 64.8 全国 61.9）
  - ・「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。91.4%（県 95.8 全国 94.7）
- 生徒質問紙調査「解答時間は十分でしたか（国語）」によると 16.3%（全国 13.3）の生徒が、不足を感じているので、テキストを素早く読む指導や、時間内に解答する指導が必要である。
- 国語科の授業で学習して習得した「知識・技能」を定着・日常化させたり、実際の日常生活の場面（会話・日記・生徒会活動・敬語の使い方等）や他教科（班での話し合い・論理的な説明・資料の読み取り等）での指導のチャンスを活用したりするために、国語科での学習内容を他教科にも発信することが必要である。また、カリキュラムマネジメントの観点からも、各教科の授業者が国語科の既習事項を把握しておくことは、その教科での学習活動をスムーズにしたり、理解を深めたりするのに有効であると考え。

# 【臼杵市】令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（ 〇：全国 □：大分県 〻：臼杵市 ）

【中学校数学】 全問 14 問 平均正答率 5.3 （大分県 5.2、全国 51.4）

令和4年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率が全国値を上回った設問は、14問中8問</li> <li>・「自然数を素数の積で表すことができる」 73.1%(全国+20.9)</li> <li>・「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」 79.2%(全国+4.7)</li> <li>・「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」 42.4%(全国+4.8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率が全国値を下回った設問は、14問中6問</li> <li>・「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」 71.4%(全国-2.4)</li> <li>・「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」 40.8%(全国-3.2)</li> <li>・「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」 42.0%(全国-2.1)</li> <li>・「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」 5.7%(全国-6.8)</li> </ul>

## 【成果】

### 「数と式」「関数」で正答率が高い

「数と式」では全国より+5.9%、「関数」では+0.9%と高かった。「数と式」では、知識・技能がしっかりと定着し、記述で説明する問いも正答率が高い。「関数」については、表・式・グラフを関連付けて授業を行い、問題解決に心がけている成果が出ている。

### 正答率20%以下の生徒の減少

正答率20%以下の生徒が14%と全国と比べて低い。日頃からの丁寧な指導において、下位層が減ってきている。

### 生徒質問紙

数学の授業で、日常生活に関連付けた問いを設定し、課題解決を心がけている成果が出ている。

「数学の勉強は大切だと思いますか」は、86.2%（県85.9・全国86.6）

「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」は、52.1%（県48.4・全国47.3）

## 【課題と対策】

### 「図形」領域の正答率が低い

「図形」の領域では、根拠や理由を用いて説明することができていない。とくに、三角形の合同条件が理解できていなかったり、証明したことを用いて、さらに筋道を立てて事柄が成り立つ理由を説明したりすることができていない。必要な条件を記述できていない生徒や不十分な生徒がいる。

・説明や証明の書き方や適切な用語や根拠を用いることの徹底

日頃の授業の中で、適切な用語の使用や説明に必要な条件を意識させる。うすきチャレンジの問題に図形の証明や説明を多く取り入れ、フォローアップを行う。

### 半数の問題で無回答率が高い

記述式だけでなく、短答式の問題でも無回答率が高くなっている。

・日頃から記述式の問題を取り入れたり、単元テストや定期考査で出題したりし、自分の考えをしっかりと書けるように指導していく。

### 各学校で正答率に差がある

学校ごとに細やかな分析を行い、正答率の低い問題に対してのフォローアップを行う。

・正答率の高い学校の取組を数学部会全体で共有

生徒の力を伸ばすための方法について、意見交流をする。

### ○生徒質問紙(問題紙)

「解答時間は、十分でしたか」では、時間が足りなかったと感じている生徒が半数近くを占めている。

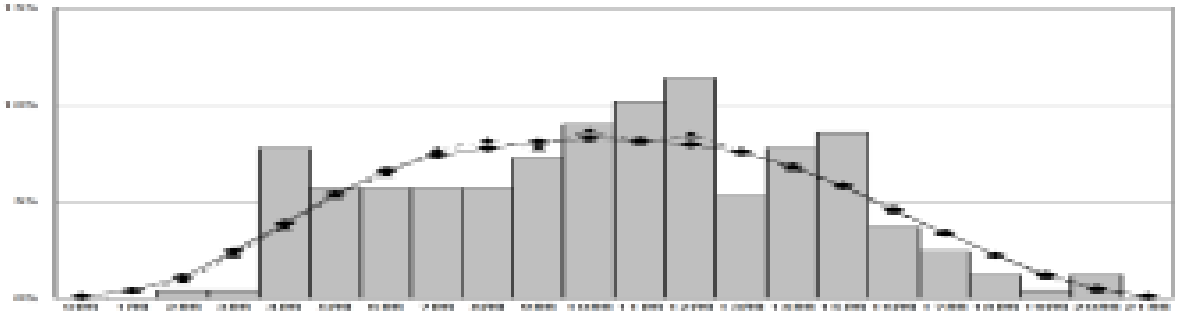
・問題文の読み取りに時間がかかっているため、日頃から情報を読み取り整理する力をつけていく。

# 【臼杵市】令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（ □ :全国 ○ :大分県 □ :臼杵市 ）

【中学校理科】 全問 21問 平均正答率50 （大分県49、全国49.3）

令和4年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>正答率が全国値を上回った設問は、21問中11問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する。 48.6%(全国+7.8%)</li> <li>・分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。 87.3%(全国+7.2%)</li> <li>・「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する。51.4%(全国+6.4%)</li> </ul>	<p>正答率が全国値を下回った設問は、21問中9問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。 19.2%(全国-9.3%)</li> <li>・液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する。 28.6%(全国-7.3%)</li> <li>・陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する。 55.9%(全国-4.4%)</li> </ul>
<p>【成果】</p> <p>「エネルギー」「粒子」「生命」で正答率が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エネルギー」では全国より+1.4%、「粒子」では+0.9%、「生命」では+1.0%高かった。</li> <li>データ処理が適切に行われている</li> <li>・グラフの読み取りやモデルで表す等、データを可視化することができている。</li> <li>生徒質問紙(%)における肯定率が高い</li> <li>・「理科の勉強は大切だと思いますか。」 79.5%(県 78.2%・全国 76.8%)</li> <li>・「理科の勉強で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。」 57.3%(県 53.5%・全国 52.7%)</li> <li>・「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか、」 67.0%(県 62.2%・全国 61.5%)</li> </ul>	
<p>【課題と対策】</p> <p>「地球」領域の正答率が低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地球」領域では、授業後に定着させる時間が十分にとられていない。</li> <li>・単元テストを行い、学習内容の定着を図る。</li> <li>各学校で正答率に差がある</li> <li>・学校毎に細やかな分析を行い、正答率の低い問題に対してのフォローアップを各校で行う。</li> <li>・新大分スタンダードを徹底し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加え、「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。</li> <li>上位層・下位層の生徒をともに伸ばす授業改善</li> <li>・1人1台端末を授業に活用する方法について、教師間・学校間で意見交流をする。</li> <li>・多様な考えを引き出させるような授業内容の工夫やつまずきのある生徒や手立ての必要な生徒への支援を丁寧に取り組む。</li> <li>・生徒による授業評価を実施し、それを授業改善に反映させる。</li> </ul>	

# 【 白杵市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

- 基本的な生活習慣は身につけている。
- 各教科の愛好度は全国と比べやや低いが、理解度は高い傾向にある。
- 規範意識は高い。
- 読書が好きな児童は多いが、読書時間は多いとは言えない。  
「難しいことにも進んで挑戦」「困っている人を進んで助ける」など自ら積極的に行動することが得意でない児童がいる。  
自己肯定感が低い児童がいる。  
新聞を読む児童が少ない  
多くの項目で肯定的な意見は全校とほぼ同じ傾向にあるが、「どちらかといえば」と回答した子が多く、慎重に考える児童が多い。

#### 生徒質問紙

- 友だちと協力して、よりよい学級にしようとする生徒が多い。
- 人が困っている時に進んで助けたり、人の役に立つ人になりたいと考えたりしている生徒が多い。
- 学んだことを生かしながら考えを求めたり、新しいことをつくりだそうとしたりする生徒が多い。
- ICT 機器を使うことは勉強に役立つと感じている生徒が多い。  
各教科を学ぶ必要性や理解度はあるが、愛好度は全国と比べて低い。  
本や新聞を読む生徒が少ない。  
地域行事に参加したり、地域をよくするために何をすべきか考えたりしている生徒が少ない。  
家で計画を立てて勉強をすることを苦手としている生徒が多い。  
テストの問題を解く時間が足りないと思う生徒が多く、時間配分を上手くできない生徒がいる。

### 2 白杵市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

・新大分スタンダードの授業を今まで同様軸にしながら、特に「生徒指導の3機能」をいかした協働的な学びの場を発達段階に応じて設定し、意欲的に学ぶことが好きな児童生徒を育む。

・本や新聞を意欲的に読んだり、ICT 機器を学習に生かそうとしたりする児童生徒が少ない。読書に日常的に親しむ場と時を設けたり、個別最適な学びや協働的な学びで新聞や ICT 機器を使った課題解決学習を設定したりする。

・家庭学習に関する課題に対して、児童会や生徒会及び保護者と連携した「ゲームや SNS に関するルール」を家庭で決めるなど、児童生徒や保護者に主体性を持たせて課題解決をめざすような取組を学校と連携して実施する。

# 【 臼杵市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

##### ・ICT活用について

○(14)「ICTを活用した校務の効率化に取り組んでいる」は100%肯定的な意見である。また、(59)「ICT機器を、授業でどの程度活用していますか」では3/4以上がほぼ毎日活用しているとあり、学校でICT機器を効果的に活用している。一方(64)「学校外の施設とのやりとり」(66)「家庭での利用」については、あまり進んでいない。

##### ・地域との連携について

○(75)「保護者や地域の人との協働による活動の実施」(76)「地域との協働により学校の教育水準の向上に効果があった」ともに数値が高い。また、(32)地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の教材として取り扱った」も70%近い学校が「よく行った」と回答している。

##### ・特別支援教育

○(68)「児童の特性に応じた指導上の工夫を行っている」では、85%近い学校で「よく行った」と回答している。

##### ・小中連携

(69)「近隣の中学校と、教育課程に関する共通の取組を行った」は、県と比べて低い数値となっている。

#### 中学校：学校質問紙

##### ・ICT活用について

○(14)「ICTを活用した校務の効率化に取り組んでいる」は高い数値だが、(15)「事務の軽減になっている」は、各項目で効果を感じていない。(57)「ICT機器を、授業でどの程度活用していますか」では100%が週3回以上活用しているとあり、調べ学習、発表表現、生徒同士のやりとりなどで高い数値である。一方、「学校外施設とのやりとり」「家庭との連絡」「オンライン学習」「不登校生徒に対する学習支援」等はあまり進んでいるとは言えない。

##### ・校内研修

○(20)「生徒自ら課題を設定し、解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている」では100%肯定的であった。

##### ・学びに向かう姿

○(23)「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組める」(24)「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」(25)「自分の考えを相手にしっかり伝えることができる」などが高い数値である。

### 2 市町村の学校質問紙調査の結果をふまえて

#### ・関係機関との連携の強化

「15の春の自立をめざした系統的な教育」を進めるために、幼小中一体教育を行っているが、さらに互いの教育を共通理解し、教育課程について協議するなど行っていく必要がある。また、地域、保護者と「子どもに付けたい力(資質・能力)」を共有し、熟議しながら取組を深化していく必要がある。

#### ・ICTの有効活用に向けた環境及び条件整備

一人一台端末の授業での効果的な活用は進んでいる。今後、デジタルドリルの導入などにより、家庭学習での効果的な活用やオンラインでの交流等進めていく必要がある。